



Newsletter

vol. 52

理事長ご挨拶～2025年度が始まるにあたって想うこと～ ●
子どもたちの声をお届けします ●
パオの理念 ●

どんなあなたも すてきなあなた あなたのままで いいんだよ

～2025年度が始まるにあたって想うこと～
理事長 渡邊佐知子

子どもセンター「パオ」は、虐待や暴力、いじめなど、さまざまな権利侵害により困難を抱え、安心して暮らせる家庭や居場所がない10代後半の子どもたちのための緊急避難場所です。

2007年に子どもシェルター「丘のいえ」（定員5名・現在休止中）を、2011年に自立援助ホームとしてステップハウス「びあ・かもみーる」（定員5名）を開設しています。これまでに120名を超える子どもたちが安全・安心な場所で心と身体を休め、生活のリズムを整えながら、一人一人のペースで力を蓄えつつ、巣立っていきました。「パオ」の活動は、子どもの権利を基盤として、パートナー弁護士と支援スタッフが協働し、退所後もパートナー弁護士が寄り添いながら支援を続けることを特徴としています。

この1年を振り返ると心に残る言葉がたくさんありました。8月の18周年記念イベント・映画「はじまりの日」上映会&トークで主演の中村耕一さん「本当にあきらめないことが大切、沢山じゃないけど味方もあるから」。9月はスタッフ、パートナー弁護士と遊園地へスタッフ「子どもたちのやってみたいけどやったことがない、に伝えたい」。同じ9月にあった「子どもシェルター全国ネットワーク会議」では、スマホ利用の意見交換「人と人が顔を合わせてコミュニケーションをとって、あなたが大切というメッセージを届け続ける居場所でありたい」「退所した後も続いていく支援者とのつながりを継続できる意義も大きい」と白熱したやり取り。全国25団体が持続的な運営に課題を抱えつつ、運営指針・第三者評価基準を策定

するなど、権利保障の活動をつなげていくパワーをもらうことができました。

その一方で、「びあ・かもみーる」は10月初旬からスタッフ不足により、夜間にスタッフを充てることができなくなり、今年3月末まで休止を余儀なくされました。入所中の子どもたちに多大な負担をかけてしまい、本当に申し訳なく思っています。その際、子どもたちを引き受けてくださった自立援助ホームの皆様には心からお礼を申し上げます。

他の自立援助ホームでも人材不足がいわれており10代後半の子どもたちを支援する難しさを改めて痛感していますが、なによりも大変な支援をお願いしているスタッフの皆さんを支えきれなかった、私たち運営側の問題が大きいと考えています。再開に向けて、「明日のパオを語る会」として、スタッフ・弁護士・事務局・理事などが何度も話し合いを重ねました。支援のあり方の振り返り、自己評価の実施、「パオ」「びあかもみーる」の理念の策定（大人・子ども向け）人員の確保とスタッフの支援体制、スマホなど生活ルールの見直し、施設の環境整備、パオの運営体制・諸規程の作成など、「パオ」が再出発する準備を行いました。このような中で、今回のニュースレターでもご紹介する巣立った子どもたちからの声は、私たちの背中を大きく押してくれました。

「パオ」はひとりの困っている子どもと出会い、その子が生きるために何とかしようから始まった団体です。私たち「パオ」は、子どもの声を聴き、子どもを深く理解して、子どもと一緒に考えながら、日常生活の中に「子どもの権利」を活かしていくことが大切だと考えています。「パオ」がすべての人にとって安全・安心な居場所になるように、子ども・スタッフ・パートナー弁護士・関係者が対等なチームとして、他機関と協働しながら活動を続けていきたいと考えています。

これからも皆様の変わらぬご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。